

# 大雨に伴う農作物等の管理について

令和 5 年 7 月 13 日  
福井県農業総合指導推進会議

大雨による農作物等への影響が懸念されますので、以下の対策徹底をお願いします。

## ○対策のポイント

- 1 冠水・浸水した圃場は早期に排水する。
- 2 野菜・果樹・花きは、排水溝や明渠の掃除、手直し等により圃場やハウスの排水を促すとともに、雨の切れ間をみて、薬剤防除を行う。

## 1 共通事項

- ・人命第一の観点から、大雨の中での圃場の見回りはしない。
- ・大雨がおさまった後でも、増水した河川や水路等の危険な場所には近づかない。
- ・大雨後は適切な病虫害防除に努める。
- ・次の雨に備え、排水溝を掘り直す。特に、冠水や浸水しやすい圃場は、重点的に排水対策を実施する。

## 2 水稻

- ・冠水した圃場では稲体が弱り、いもち病、茶米、褐変粳などが発生しやすくなるため、殺菌剤を施用する。

## 3 大豆

- ・明渠が排水口とつながっているか確認し、必要に応じて手直しを行う等、圃場排水に努める。
- ・雑草が発生しやすくなるため、土壌水分低下後の培土や除草剤の施用を行う。

## 4 野菜・果樹・花き 【共通対策】

- ・明渠が排水口とつながっているか確認し、必要に応じて手直しを行う等、圃場排水に努める。
- ・ハウス内に水が侵入した場合、排水ポンプ等で速やかに排水を行うとともに、換気を十分に行い土壌の乾燥を図る。
- ・圃場に長期間滞水する場合は、根の活力低下や枯死を防ぐため、圃場内に浅い溝を掘って表面水を圃場外に流す、または圃場周辺の側溝のゴミ、泥の除去、除草などで水の流れをよくし、すみやかに排水ができるように対策を行う。
- ・マルチを行なっている畝が冠水した場合は、マルチをはいだり、畝肩の部分までめくりあげたりして、畝の乾燥を促す。

## 5 野菜

- ・果菜類では、根傷みによる草勢低下を防ぐため、果数制限、果房の制限、若もぎなどで着果負担を軽減する。また、トマト等では今後の強光、高温による葉焼けなどの発生を防ぐため遮光などを行なう。
- ・根傷みや茎葉汚損により草勢低下が懸念される場合、回復のため液肥を葉面散布する。また、天候が回復してきたら、早めに畝間を中耕して土壌中に酸素を供給し根の回復を図る。
- ・スイカ等は果実シートを敷いて、果実の下に水が溜まらないようにする。
- ・現在出荷中の農作物については、計画的な収穫・出荷に努め、選別を徹底する。

## 6 果樹

- ・過湿による病気の蔓延の恐れがあるため、雨前に薬剤防除できなかった場合、雨上がり直後に農薬使用基準に従い殺菌剤を散布する。
- ・泥水が流入・堆積し、根の酸欠が懸念される場合は、応急的に株元の直径2 m程度の泥を取り除くとともに、園内の風通しを良くし土壌の乾燥を促進する。

## 7 花き

- ・茎葉が汚損して病害の発生が懸念される場合、適切な薬剤を散布する。
- ・冠水により茎葉が汚れた場合は、圃場の排水に努めるとともに、可能な限り速やかな散水等で汚れを落とす。